



宮城県助産師会だより

～巻頭言～

これまで以上に助産師の存在が大切になる！

代表理事(会長) 塩野悦子



日頃より会員の皆様には宮城県助産師会活動へのご協力・ご支援を賜り心より感謝申し上げます。さて、我が国の昨年度の出生数は初めて70万人を下回り、この少子化の加速は留まる気配がありません。有識者が検討を重ねての出産費用の無償化の方針が、少子化の歯止めになるか注目されるところです。また、無痛分娩数の増加、母乳育児率の低下などの現象から、出産や育児への考え方において大きな転換点を迎えていることは確かです。しかし、私たち助産師は時代の流れを見据えながら、人間のあり方の真髄を追求すべく、助産師としての本来の力を発揮していくことが求められています。

5月17日の公益社団法人日本助産師会第98回通常総会では、産婦人科医会会長、厚労省看護課長などの来賓いずれの方からも、「今後は、これまで以上に助産師という立場の存在が重要となる」というお話がありました。それは決してお世辞ではなく、妊産婦やその家族に寄り添う助産師という存在に心から敬意を払うの言葉だと感じました。

現に産後ケア事業は、安全面、公平面、そして助産所の運営面など含めて、年々拡充されており、特に宮城県は先進的で、全国に先駆けて、産後ケア事業の集合契約を導入し、今年で2年目となります。市町村の区域を超えて利用できるので、産後ケア事業の利用者が増え、浸透しております。現在、宮城県助産師会の会員数は188名ですが、ここ2～3年は、産後ケア事業のために開業する助産師が増えております。事例検討会や研修会では、助産師どうしが交流し、更なる力をつけて、利用するママたちの心と体を癒して下さっています。最近では育休中のパパも助産師の言葉に救われているようです。助産師はまさに幸福をもたらす職業と言えると思います。

当会では、様々な委託事業を受けて実施しておりますが、会員であれば、どの事業にも参加できますので、ぜひお申し出ください。一緒に活動していきましょう。今後も宮城県の助産師として力を合わせて、また多職種の皆様との連携を重ね、妊産婦とそのご家族に寄り添い、宮城県の母子保健の発展を目指していきたいと思ひます。これまで以上に皆様方のご協力とご指導を賜りたいと存じます。

受賞おめでとうございます！ますますのご活躍をご祈念いたします！

この度、塩野会長にご推薦いただき日本助産師会会長表彰を受けました。これまで様々な方々に支えて頂き助産師を続けることができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。2011年から地域母子保健に携わっていますが、日本助産師会の委員としては、助産所部会委員を始め、U25へのプレコンセプションケアに関する教材開発、現在は安全対策小委員会の活動をさせていただいております。

日本助産師会の仕事は、全国で働く開業助産師を始め助産師職能の働きぶりを生に感じることができ、とても新鮮で自分自身も刺激を受け地域で働く活力となっております。これからも、母子の幸福のため、また地域で働く助産師の活動が益々発展していけるように力を尽くしていきたいと思ひます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

ひかり助産院 早坂ひかり

日本助産師会会長表彰



早坂ひかり 佐藤雪路

祝

この度、日本助産師会会長表彰という栄誉ある賞をいただき身に余る光栄です。

助産師になり四十余年、臨床で、地域で、教育の現場で、多くの方々と出会い、たくさん学びと経験をいたしました。助産師という職業をこよなく愛する先輩諸姉に導かれ、志同じくする仲間と共に時にお母さんと赤ちゃんから温かいエネルギーを頂き、心から感謝申し上げます。この喜びを長年支えてくれた家族と分かち合い、これからも初心を忘れることなく、生命に関わる助産師としてまた健康に関わる看護者として精進して参ります。今後とも宜しく願いいたします。

ゆきんこ助産院 佐藤雪路

第98回 日本助産師会総会 第81回 日本助産師学会参加報告

勤務助産師部会長 佐藤雪路

去る令和7年5月15日～17日に一橋大学一橋講堂において行われた総会、学会に参加しました。総会前日は、都道府県代表者会議及び三部会交流集会在中止、急遽臨時総会が行われ翌日に控えた総会運営と選挙方法についての説明がなされました。

総会では、代議員有志からの社員提案権行使書により監事3名、理事12名の解任請求が出されました。代議員による15名ひとりずつの審議により2名の理事が解任となりました。続いて理事の選挙が行われ、19名の立候補者から13名の理事が当選しました。定款では理事定数は14～18名とされていることから、今後再選挙の予定となりました。

最終日の学会では、ポスター発表とランチョンセミナーを挟み2つの研修を聴講しました。児童精神科医師の「子どもの心の診療の風景」は、臨床医の立場から近年社会認知度が一気に高まった「発達障害」について、関連して生育環境における大きな要素であることも時代の「トラウマ体験」について、トラウマからの回復に重要な「アタッチメント」について大変分かりやすいお話でした。母子の本来の姿を再確認し、母子に関わる助産師としての役割を再認識し有意義な時間を過ごすことが出来ました。



令和7年5月24日に第16回通常総会が宮城県医師会館で開催されました。昨年は対面・オンラインでの開催でしたが、今年度は対面での開催でした。当日の出席者43名、委任状90名で、過半数を超え総会は成立しました。

様々な事業に加え、産後ケアの集合契約助産所が33市町村に拡大しました。また集合契約助産所は44施設になり、ますます躍進の年になりそうです。また、会計に伴う作業も大きくなっています。令和8年度から課税事業者になるということで、税理士の方と相談をして進めていくことを情報共有しました。

午後からは「宮城県の産後ケア事業に関するシンポジウム」を開催。参加者は115名で、予想以上の大盛況でした。

まず初めに宮城県保健福祉部子育て社会推進課課長日下氏より、宮城県産後ケア事業の集合契約への経緯と今後の展望の基調講演がありました。また、シンポジウムとして助産院訪問型の立場からひかり助産院の早坂ひかり氏、医療施設の立場からスズキ記念病院の五十嵐幸子氏、宿泊型・通所型助産院の立場から産後ケアハウスママん家の菊地雅子氏、助産師会事務局の立場からとも子助産院の伊藤朋子氏の発表がありました。それぞれの立場での実情とやりがい・課題や今後の展望が発表され、参加者は熱心に聴講していました。

その後、自由参加の交流会には40名の参加があり、5グループに分かれて交流をしました。年齢も立場も様々でしたが「顔の見える関係」を作る機会となり、有意義な時間となりました。母子を支えるための気持ちは皆一緒で、それぞれの立場で試行錯誤して努力している様子がわかりました。

これから産後ケアだけでなく、他の事業も拡大し、助産師への期待がさらに高まっています。今年度もみんなで力を合わせて頑張っていきたいと思います。

宮城県助産師会通常総会開催にあたり、日本助産師会から贈られた祝辞を掲載いたします

2025年度貴会総会開催にあたって

2025年度 一般社団法人宮城県助産師会 通常総会を開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。また、貴会そして貴会会員皆様方が展開されている様々な活動について敬意を表するとともに、日頃より日本助産師会の活動にご理解ご協力いただき衷心より感謝申し上げます。

少子化が加速し、わが国の人口が減少傾向に転じて以来、社会は大きく変化しています。2024年には厚生労働省のHPに「出産ナビ」が開設され、助産所を含む全国の分娩取り扱い施設の情報が公開されました。「妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会」も継続審議されており、今年度はさらに細かな議論が進んでいくことが想定されています。本会では、出産する女性の意思決定が尊重されること、周産期医療の中で助産所が位置づけられることを目指して取り組んでまいります。また、出産のみならず妊娠中からの伴走型支援の推進、産後ケアの拡充、プレコンセプションケアの推進など、助産師に期待されるさまざまな事案にも対応していきます。

貴会におかれましては、母子とその家族のみならず、あらゆる世代の女性への健康支援や防災・減災対策をはじめ、時代や対象者のニーズに応じた助産師活動の在りかたについて、本会と情報共有し連携をとって活動を推進されることを期待しております。

貴会のますますのご発展を心より祈念しお祝いの言葉といたします。

2025年5月吉日

公益社団法人 日本助産師会
会長 中根 直子



産後ケア事例検討会の変更点について

事例検討会担当 近藤素子

2024年度までは、仙台市の訪問型に登録している助産師が事例検討会をしていました。2025年度から宮城県集合契約となったため、訪問型助産師のみならず、宿泊型・デイサービス型に携わっている助産師も参加する形となりました。これは、産後ケアに関わる助産師の質の向上、情報共有・交流を図る事が目的です。また、今後産後ケア事業に参入しようとしている助産師の学びと交流の場となることも目的としています。

4月に第1回目が開催されました。Zoom開催で40名近くの参加者が、いかに有意義な検討や交流が図れるか担当者で考え、ブレイクアウトルームを用いました。初めての試みではありましたが、各グループで短い時間ながら交流が図れたようでした。

2か月に1回の開催ではありますが、事例検討会を通して、各助産師が自分のケアを振り返り、よりよいケアを提供するための学びの機会となるよう担当者として工夫して参りたいと思っています。皆様よろしくお願ひいたします。

新任役員紹介

今年度より教育委員を務めさせていただくこととなりました。病院勤務看護師としての経験の方が長く、助産師としてのキャリアを日々積み重ねているところです。せんだい助産師サロン、産後ケア事業などに参加させていただいております。

微力ではございますが、皆様のお力添えをいただきながら活動していきたいと思ひます。至らぬ点もあるかと存じますが、何卒ご指導のほどよろしくお願いいたひします。



松浦唯(教育委員)

タクシードライバー研修報告

～妊産婦さんにやさしい移動を考える～ 愛のはな助産院 高野花
令和7年2月18日・19日、株式会社グリーンキャブ仙台支社（日交タクシー）様にて研修を開催。参加ドライバーは延べ45名、講師として助産師7名が参加しました。

研修の前半は座学で、出産の基本的な流れ、破水時の対応、安全なシートベルトの着用位置、妊婦さんが安心できる声かけの方法などをお伝えしました。後半は体験が中心で、妊婦体験用ジャケットを着用し、階段の上り下りやタクシーへの乗り降りを実施しました。「思ったよりもタクシーが狭くて大変」「重くてシートベルトを締めづらい」など、妊婦さんの不自由さに対するリアルな感想が聞かれました。さらに、陣痛が始まった妊婦さんを想定したロールプレイングも実施。破水をしている場合、上のお子さんと一緒に乗車する場合、お産が緊迫している場合などを想定して、対応と一緒に考えました。タクシードライバーさんは原則としてお客様の身体に触れることができないため、「どのような声かけや配慮ができるか」が重要なテーマとなりました。「少しでもその不安を取り除くような対応を心がけたい」といった前向きな感想もあり、研修を通じて妊婦さんへの理解が深まった様子が伺えました。

なお、日交タクシー様では「陣痛119番」という独自のサービスを実施しており、陣痛時や体調不良時に、事前登録された医療機関へ妊婦さんを送迎しています。このサービスは通院も含め、年間約3,000件の利用があるとのこと。妊産婦さんが「大丈夫」と思える移動の時間をつくるために、私たち助産師と地域の交通サービスがつながることの大切さを感じた2日間でした。



仙台市委託事業「せんだい助産師サロン」 サロン担当 根本靖子

今年で7年目になりました。開催毎にのびすく各館と連携し市内在住の生後2～6か月未満の母子を対象に月7～10回程開催しています。COVID-19によりこれまでの5年間、個別相談やオンラインサロンで対応してきましたが、今年度から対面のみの開催予定です。

育児相談、母親間の気持ちや情報の共有等により、「私だけじゃないと思え安心した」「心配事が解消した」などの感想が寄せられています。終了後のカンファレンスでは子育てコーディネーター（NOKOCO）や保健センターへの情報提供の必要性を検討し、継続支援につなげるケースもあります。育児不安や孤立化の解消、母親同士の交流支援の一助となるよう助産師の役割を果たして参りたいと思います。

会員の皆様から対象者へのお声がけを引き続きどうぞよろしくをお願いします。

宮城県・仙台市委託事業「助産師による妊産婦電話相談」 井本優子

令和2年度から開始した本事業は、妊娠・出産・育児に不安を抱える妊産婦の様々な相談に対応しています。利用数は年間300件ほど、利用者の7割以上が初産婦・産後の方で、育児や授乳に関するご相談が6割を占めています。気になるケースは相談員内で情報共有や支援方法を検討、行政機関に繋げるなどの対応をしています。

私は令和7年1月から従事させていただいておりますが、電話という声だけの限られたやりとりの中、必要な情報を提供するための咄嗟の判断力が必要だと実感しています。また、お話をお伺いしていると「話して気持ちがすっきりしました」「相談してよかったです」などの言葉をいただくこともあり、ちょっとしたことで誰かに話すことの大切さも感じています。顔が見えないからこそ気軽に相談できる窓口として、妊産婦さんの声に耳を傾け、安心できる妊娠・出産・育児の支援のため努めてまいりたいと思います。

仙台市委託事業 産後ケア事業（訪問型）第3回助産師の質向上のための研修会

周産期のメンタルヘルスケア

～産後ケア訪問型助産師の心得について事例を通して学ぶ～ 開催報告



志村祐子先生

山川助産所 山川史子

令和7年3月6日、東北福祉大学にて開催されました。講師は、精神保健福祉士であり、具体的で分かりやすく実践に活かせる内容をお伝えいただき、改めて日頃の

支援（かかわり）を見直す機会・学びとなりました。産後ケア訪問の対象者は、少なからず産後うつ精神状態と隣合わせのようなメンタルの方が多いと感じます。

そのため短い時間で情報収集とコミュニケーション、その対象に応じたケアの提供にはとても気を遣い、難しいと思うこともあります。信頼される支援者であるために、自分自身の振り返りが必要であること、相手と波長を合わせることの大切さを教えていただきました。

これからも講義を振り返りながら、自分を整え、産後ケア事業に関わっていきたいと思います。



令和7年2月15日（土） 宮城県委託事業

令和6年度助産師人材育成・復職支援研修開催報告

【第1部】法医学的所見に基づく児童虐待基礎的知識と対応

出張専門助産師 佐藤由美子

法医学の観点からの虐待の講義は事例を交えながら大変わかりやすく、とても貴重な機会でした。

訪問する先で「泣き止ませないと虐待の通報されるんじゃないかと思って」とおびえながら、泣くことに負担を抱えながら育児を行っているママ達にもお会いします。そのような今の日本での育児。先生からのお話で虐待の現状を知り、私たちが関わっている親子でも起きうることと改めて感じました。

虐待の早期発見にも努めていく必要性について学びましたが、一辺倒には行かない育児。家族の特性、子どもの特性を捉えて、寄り添いながら、その親子が必要な支援を受けられるよう、私たち助産師が「つなぐ」を意識しながら、早期からの介入ができるような関わりについても考える機会となりました。



高木徹也先生

【第2部】新生児乳幼児に不足しやすい栄養

教育委員 武石陽子

第1部に続き第2部も145名が聴講する大盛況の研修会となりました。

加藤先生は、小児科医として母乳の大切さを理解し、助産師と同じように、母乳で悩める母親に寄り添う支援をされていることが印象的でした。母乳については、鉄分やビタミンD、亜鉛といった乳幼児に必要な栄養素が不足していることや、最近では、オリゴ糖が付加されているなど、ミルクの方が優秀ではないのかと、お母さんたち、そして助産師たちも迷っている現状があります。加藤先生からは、これは母乳に関する研究・製品改良のたまもので、「母乳に近い栄養分」を突き詰めていった結果であり、その後のミルクと母乳の研究結果からも、やはりこの時期の子どもにとって母乳に勝る栄養はないと教えていただき、助産師としての実践に自信を持つことができました。鉄分の摂取、ビタミンDの活性化について、参加者からの質問に具体的に答えていただくことで、明日からの実践をさらに後押ししていただきました。



加藤育子先生

CLOCMiP®レベルIII
選択研修

宮城県内の助産所をめぐり、地域の助産師と情報交換をします。分娩取り扱い助産所では、安全管理評価の実施もいたします。

宮城県内に在住、または勤務されている助産師なら、非会員でもご参加いただけます。お誘いあわせの上、是非、ご参加ください。同封のチラシをご参照ください。

①7/11 ②9/12 ③10/3 ④10/10 ⑤10/17 ⑥11/28開催

「孤立や暴力の中にいる 女性を守るための研修」

【日時】令和7年11月8日(土) 10:00～14:00 (9:30～オンライン入室開始)

【会場】オンライン リアルタイム研修(2部構成) ウェビナー(zoom)を使用

*どちらか1部のみ受講可 *定員:500人を予定

【開催概要】

第1部:宮城県の周産期救急搬送と未受診・飛びこみ分娩(CLOCMiP®選択研修)

講師 工藤さくら先生(東北大学病院産科 宮城県周産期救急搬送コーディネーター補佐、助産師)

第2部:性暴力被害者への支援の実際と助産師ができること

(CLOCMiP®必須研修「女性に対する暴力予防の支援」)

講師 長江美代子先生(日本フォレンジックヒューマンケアセンター副会長、精神看護専門看護師、性暴力対応看護師、公認心理士)

企画担当・企画研修会の問い合わせ先: k@midwife-miyagi.net

一般社団法人宮城県助産師会 教育委員 武石・望月・川村・松浦

「周産期福祉避難所開設訓練」「災害に対応する訓練」

災害対策委員 戸田恭子・佐藤由美子

【周産期福祉避難所開設訓練】

今年度の仙台市周産期福祉避難所訓練は、**11月28日(金)午後**に**仙台市医師会看護専門学校**にて開催が予定されています。

災害時に避難所が開設した場合には、当会は依頼を受けて助産師を派遣します。当会の主旨に是非ともご賛同いただき災害派遣助産師の登録にご協力をお願いします。

災害派遣助産師に登録している皆さま、避難所訓練に興味がある方、仙台市周産期福祉避難所訓練の派遣助産師の体験をしませんか。大募集中です！



【安否確認訓練】

今年度も安否確認訓練を、日時を定めずに実施いたします。

宮城県助産師会では、東日本大震災の経験から日常からの情報交換により顔の見える関係の構築のため、会員の皆さまを地区・職場・職種などの11のグループに分け、そのグループリーダーとサブリーダーが安否確認を行っています。会員の皆さまは、訓練時にリーダーまたはサブリーダーから連絡がありますので、安否について

3日以内にお伝えください。

ご協力をお願いいたします。

【安否確認名簿の送付】

2025年度の安否確認グループ名簿をお送りいたします(同封)。

取扱いには十分ご注意いただきながら、安否確認や会員の情報共有にお役立てください。

なお、記載事項に訂正がある場合や名簿掲載の有無に関するご希望があれば、ぜひ下記まで連絡をお願いいたします。また、不明な点がございましたら、遠慮なくご連絡ください。

【連絡先】電話:090-2273-3834
電子メールmiyagisanba@gmail.com

保健指導部会における思春期保健健康教育について

保健指導部会長 武者文子

助産師会では仙台市からは小・中学校向けに思春期保健健康教育、石巻市委託事業として「親になるための教育事業」を今年度も実施いたします。

仙台市の事業は2024年度から小学校も対象となり、昨年度は48校の依頼がありました。わかりやすかった、ためになった、来年もお願いしたいという感想が届きました。

石巻市の教育事業では事前アンケートが実施され、生徒さんたちの質問に答える時間を作ったことで、授業への取り組みがますます積極的になりました。また、石巻市内の子育てサークルのママと赤ちゃんたちが毎回中学校に来てくれることで、抱っこなどのふれあいもたくさんできました。今年度も15校予定しています。思春期保健健康教育の担当助産師の皆さんは、他の仕事と掛け持ちで、お忙しい方ばかりですが、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

じょさんしフェスタ
in みやぎ2025
【9/23開催】



「じょさんしフェスタ2025」は イオンモール新利府南館で開催予定です。会員の皆様はスタッフ参加をお願いします。近くなりましたら詳細を広報メールでお知らせします。

一般社団法人宮城県助産師会

〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1-8-1

東北福祉大学健康科学部保健看護学科 気付

電話:090-2273-3834

電子メール:miyagisanba@gmail.com

令和7年度みやぎ助産師マップ掲載基準について

みやぎ助産師マップ連絡係 佐藤祥子

令和7年度の「みやぎ開業助産師MAP」は、5月に仕上がり配送完了しております。あらたに3か所の助産所を迎え27か所の助産所が掲載されています。マップ内には、「みやぎ産後ケア助産師検索サイト」の二次元コード(右記)を掲載しております。

印刷リーフレットの「開業助産師マップ」に加え、ご活用いただけますよう、よろしくお願いいたします。紙マップも電子版でもご覧いただけます。

また、掲載基準は下記です。新規掲載希望の方、継続掲載される方はご確認をお願いします。



【掲載対象】助産所部会、保健指導部会で開業している方
【掲載基準】

①宮城県助産師会会員である ②会費の滞納がない
③賠償責任保険に加入している ④1年間(令和7年4月～翌3月)で当会の事業に2回以上参加している ⑤1年間(令和7年4月～翌3月)で当会の研修会に2回以上参加している *基本、当会主催の研修会参加とするが、アドバンス助産師更新の基準に該当する研修会の参加も可とする ⑥令和7年4月以前に開業している

【新規掲載希望の方】新規開業助産師の方は上記に次の2点を追加(開業初年度は掲載できません)

○宮城県助産師会通常総会に出席または理事会・委員会に出席して自己紹介を行う

○宮城県助産師会だよりに研修会報告とともに、助産院の紹介記事を書く

【編集後記】広報委員 新沼映子 根本靖子 井本優子

新年度もたくさんの事業があり、皆様のご活躍をお伝えできることが楽しみです。機関紙作成にあたり、ご協力いただきました皆様に改めて感謝申し上げます。